

あつたはる百屋の
あすめ

小き舟の舟
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人



あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人



あすめの人
あすめの人



あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人

あすめの人
あすめの人



「義理の事へは、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、



「女は、いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、



いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、



いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、

いかにせよ、いかにせよ、



せんたる

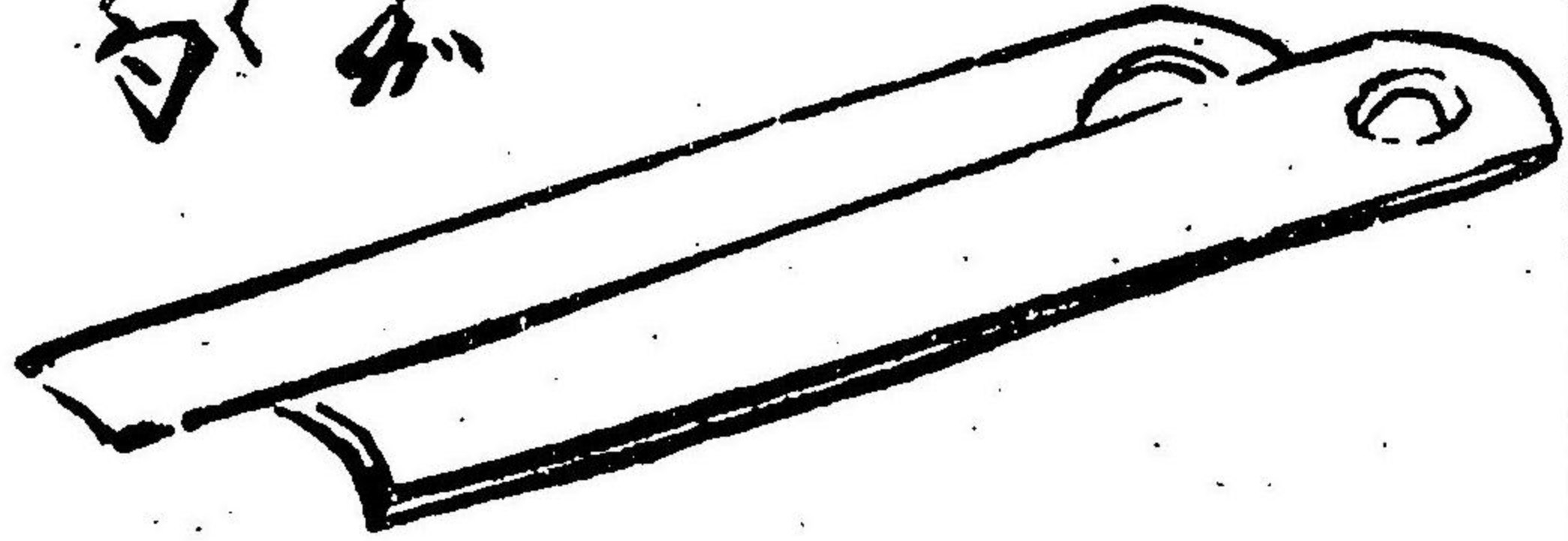
義士で忠義の大名おや子
武部源義光の御孫
かゝる山下の女お初
る代林で日頃を
おきく寺に松がまを
くまふは松がまを
たぬぬお松がまを



かみありてふら
お松がまの
お松がまの
お松がまの



光生
お松がま
中丸
お松がま
お松がま
お松がま



お松がまの
お松がまの
お松がまの
お松がまの
お松がまの
お松がまの



南家の

子が
日記
煙で
架又も



「まじく
よんでらる

義子

おま
お家の
おま



「まじく

時計針

やの



おかみ
さん

「まじく
おかみ
さん

か
あか
おま
おま

す
おま

様
おま

「まじく
おま
おま

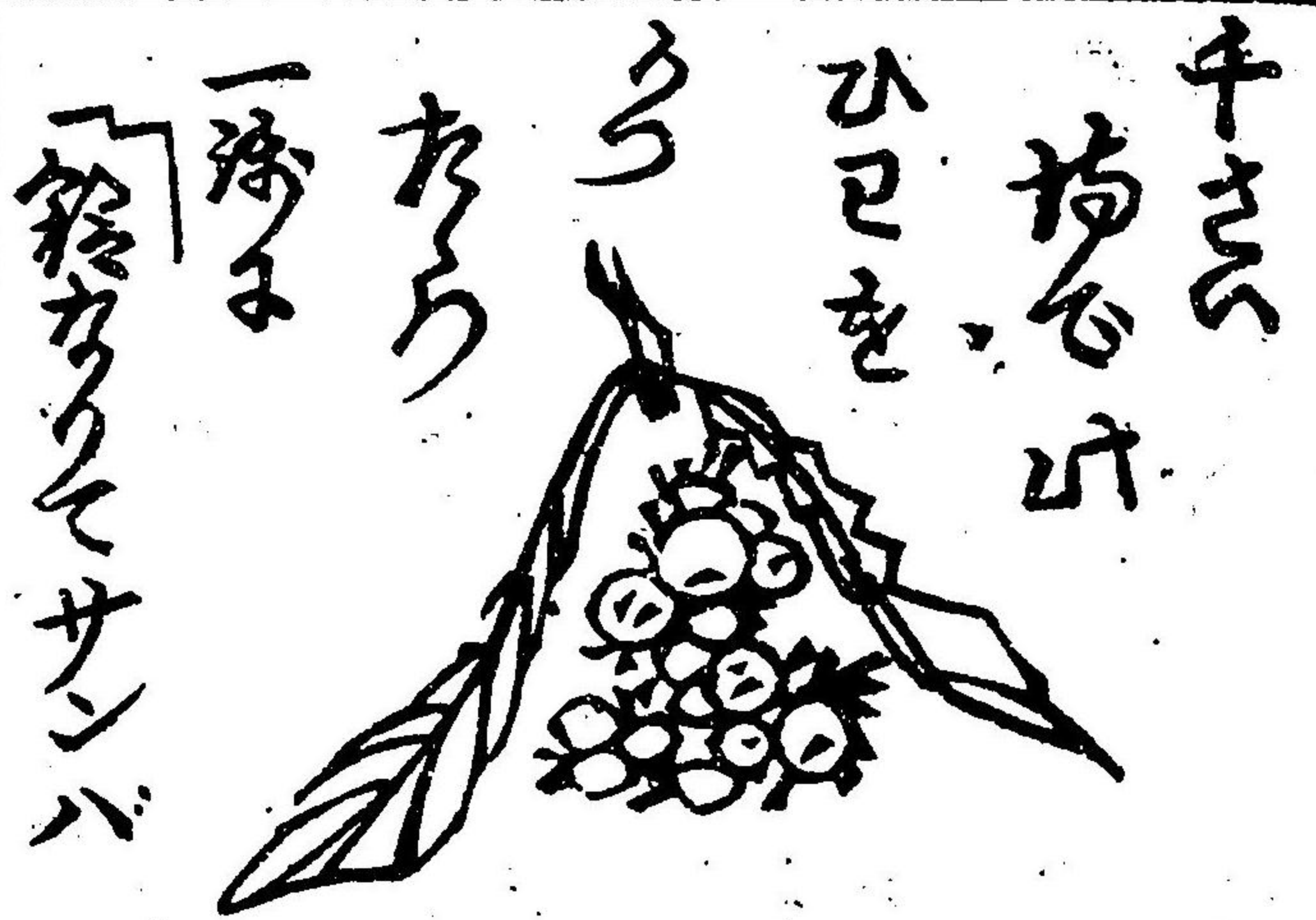




あの大い
 美い
 善い
 つき
 た



とあるの
 あせう
 身の内
 女房が
 持るか
 いえが
 女書



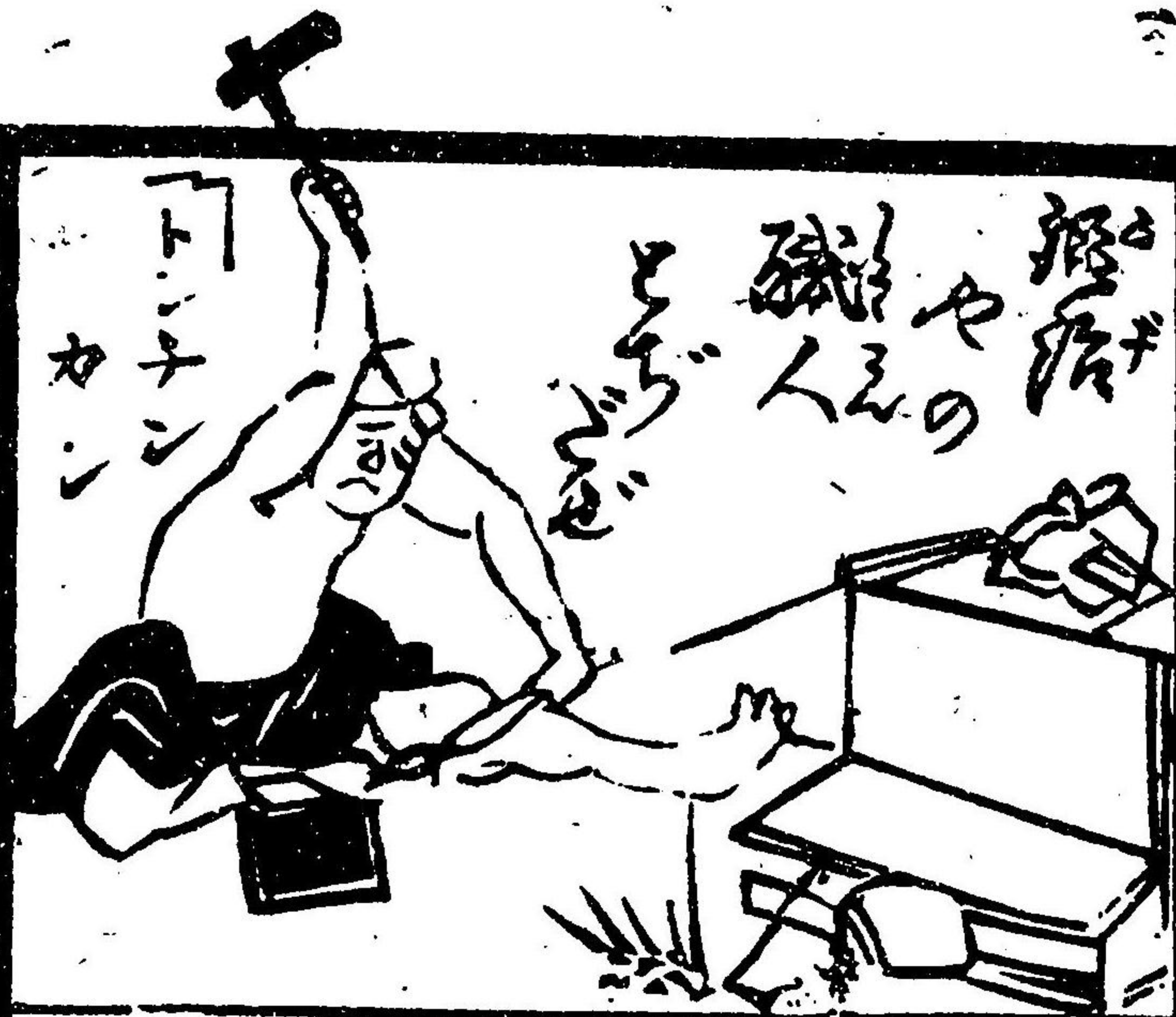
千さ
 持心
 ひこを
 う
 ちり
 一
 袋ちりてサンバ



資本が
 かけま
 結何の
 銀形へあ
 三井てらねると

口

九



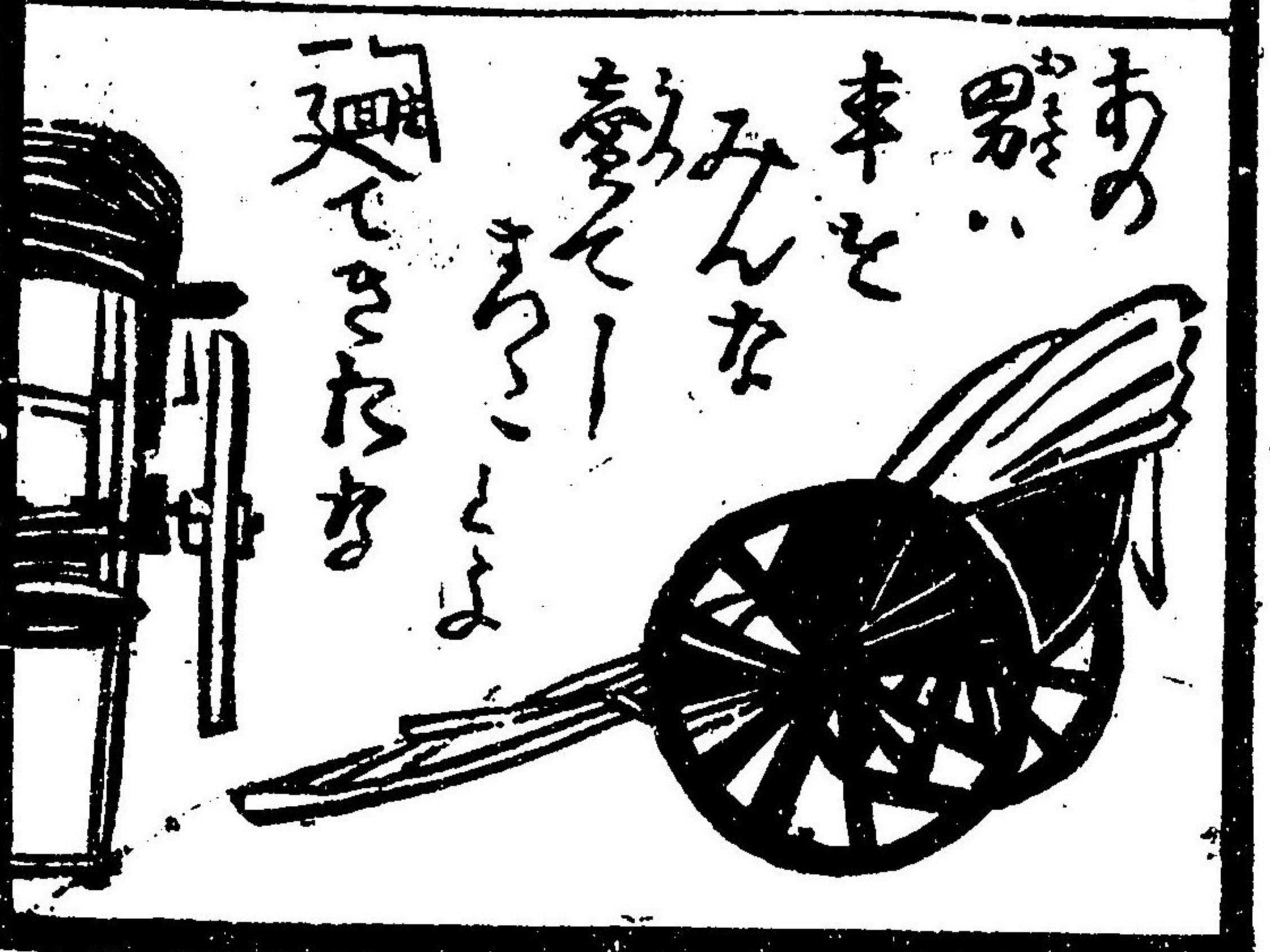
びんが
 やの
 職人の
 とら
 かん
 カン



けんの
 葉の
 こら
 み
 せ
 そ
 の
 名
 衛
 さん
 せ
 わ
 せ



かん
 子
 比
 那
 赤
 田
 の
 名
 候
 外
 の
 せ
 や
 の
 お
 じ
 が
 さん

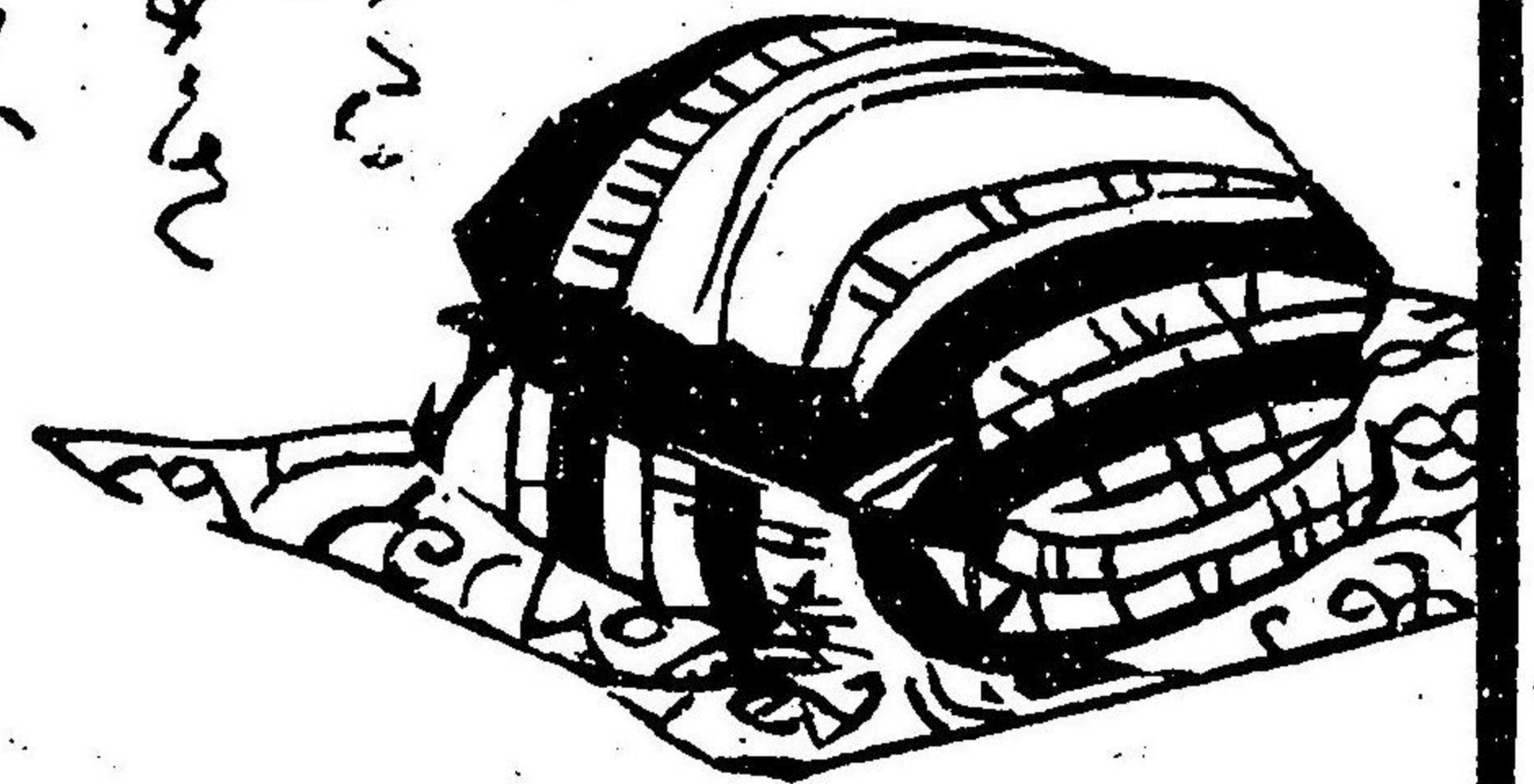


あ
 の
 器
 車
 と
 み
 ん
 な
 勤
 せ
 一
 ま
 っ
 せ
 一
 廻
 て
 さ
 た
 ち
 ち
 ち

おのりの
おはな
えん
かんと
すれど
おん
おはな
だんご



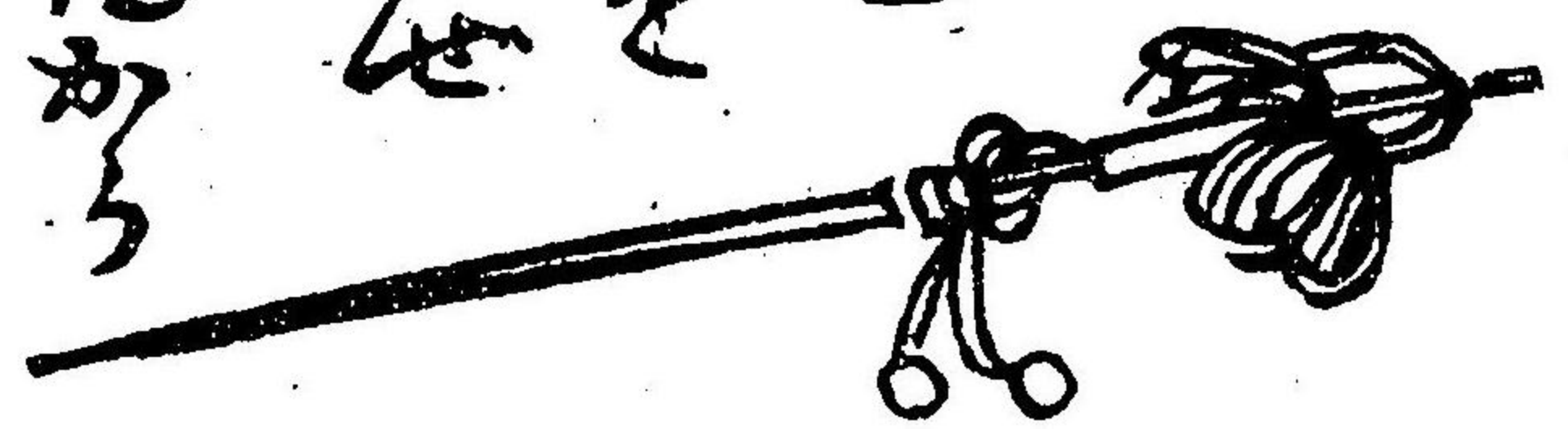
えん料
おのりの
おはな
かんと
すれど
おん
おはな
だんご



おはな
えん
かんと
すれど
おん
おはな
だんご



おはな
えん
かんと
すれど
おん
おはな
だんご





一まんの
おの
おの
おの

おの
おの
おの
おの

おの
おの



おの
おの

おの
おの
おの

おの
おの
おの



おの
おの
おの

おの
おの
おの



おの
おの

おの
おの
おの
おの

おの
おの
おの



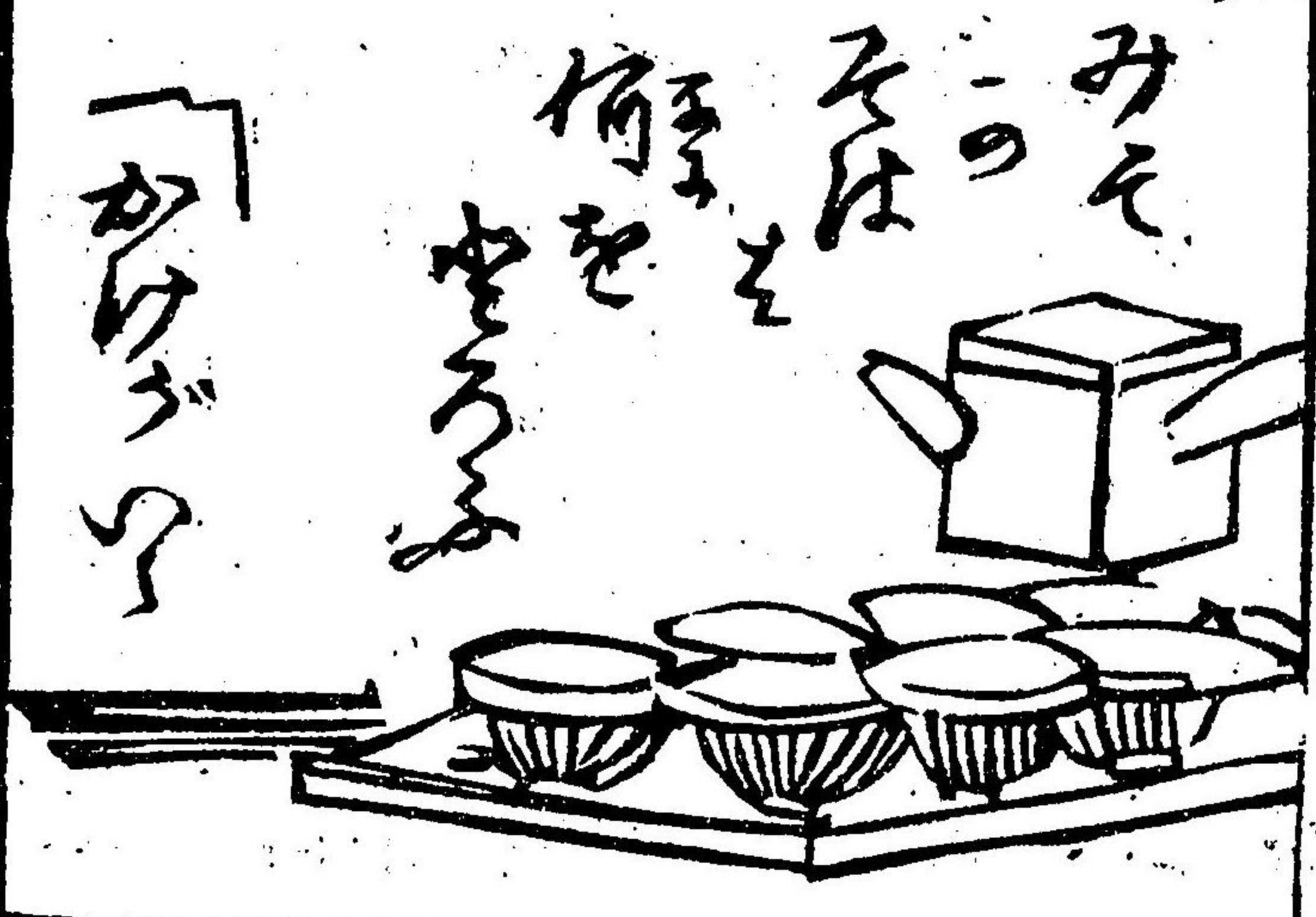
衣ころもぎ
ままき
人ひとら
ままき
「おきんが」
「おでま



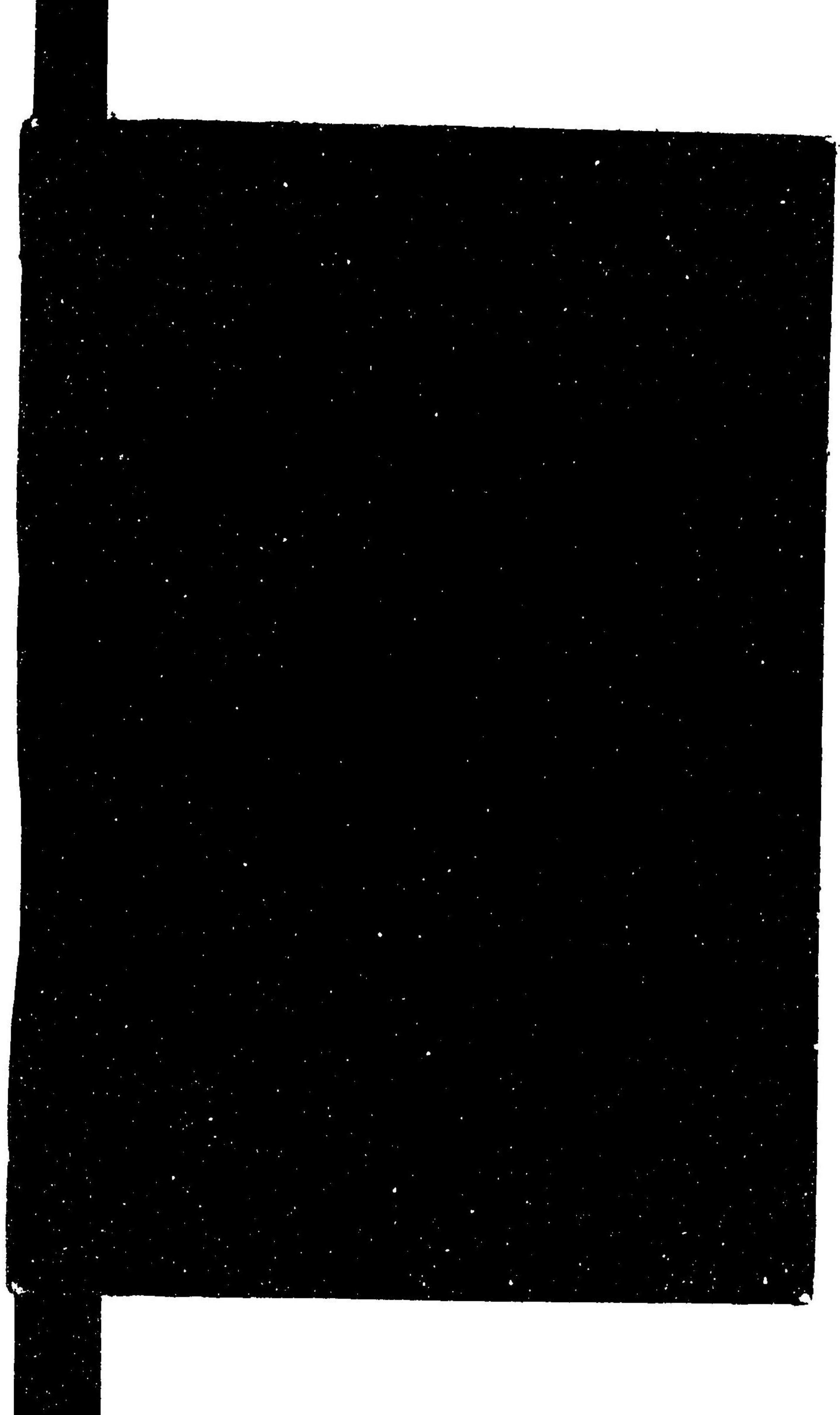
「おきんが」
「おでま
「おきんが」
「おでま



「おきんが」
「おでま
「おきんが」
「おでま



「おきんが」
「おでま
「おきんが」
「おでま



特60

44

074359-000-2

特60-44

仙たゐふし一口ばなし

関 由蔵 / 刊

M19

CEI-1587

